

飯田市公共施設マネジメントの基本的な考え方

1. 飯田市の公共施設の現状	
① 保有する公共施設	・・・P1
② 築年別整備状況	・・・P2
③ 将来の更新費用の試算	・・・P3
2. 飯田市財政状況等の推移	・・・P4
3. 飯田市公共施設マネジメントの基本的な考え方	・・・P5
4. 管理運営の見直しプロセス	・・・P6
5. 良好な公共施設管理のイメージ	・・・P7
6. 今後の進め方	・・・P8
(参考)	
・ 飯田市公有財産維持管理の全体概要	・・・P9

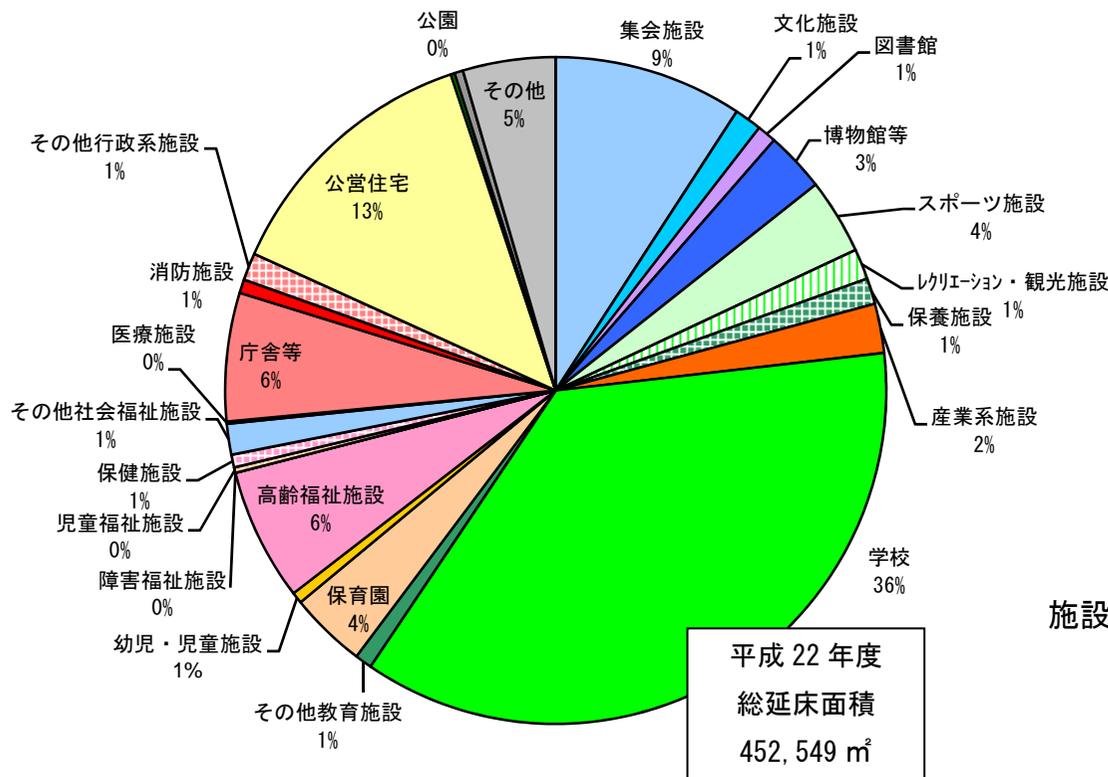
公共施設長寿命化計画策定検討会議
(事務局 総務部 財政課)

1. 飯田市の公共施設の現状

① 保有する公共施設（平成 22 年度）

● 総床面積 452,549㎡、総施設数 815件 ● 市民1人あたり約4.29㎡の施設を保有

公共施設の建物面積の内訳



・公共施設は、市民生活に必要なサービスを提供する場として大切な財産であり、とりわけ自治振興センター、集会施設、教育文化施設等は良好なコミュニティの形成に寄与している。

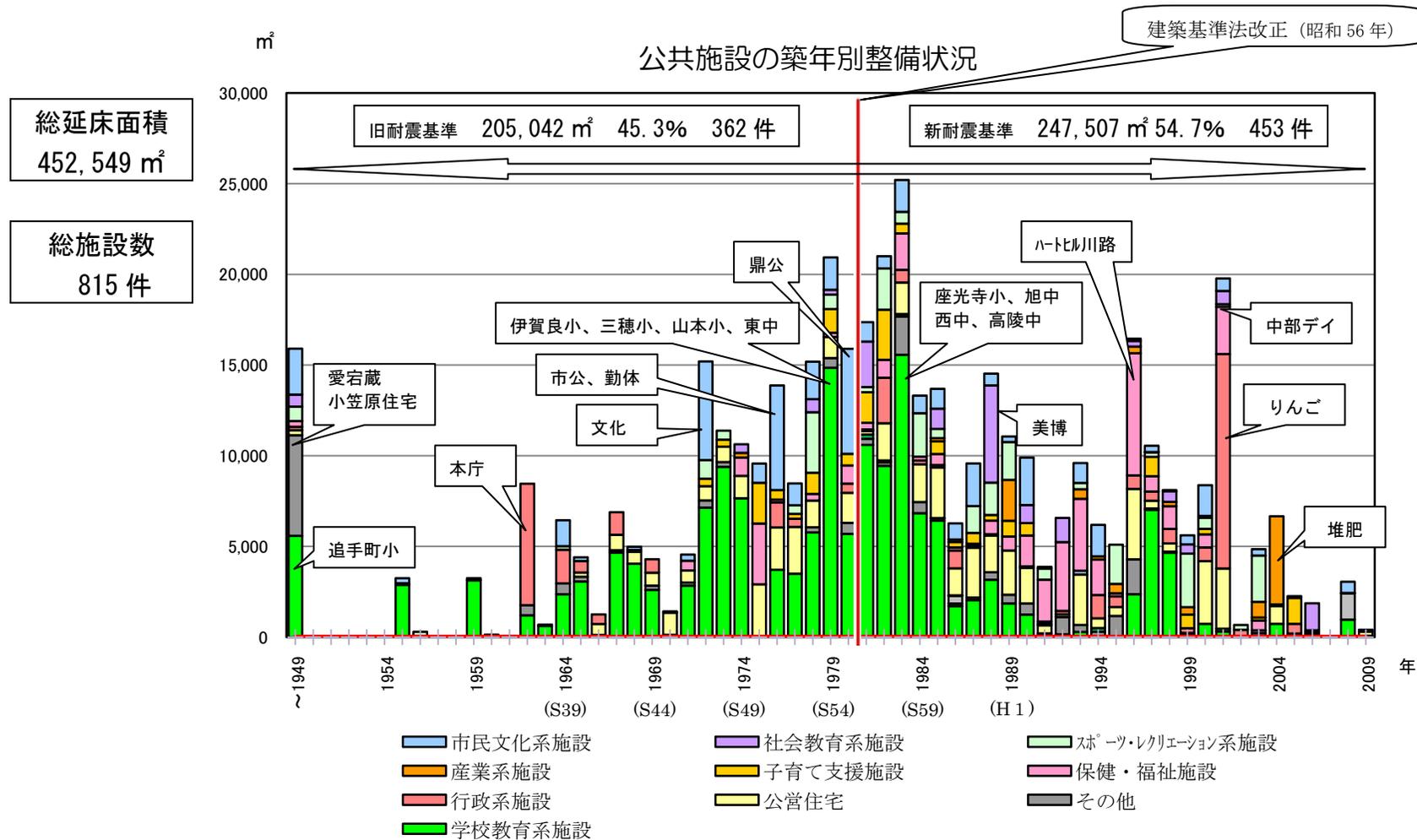
・人口規模が飯田市と同規模（10～11万人）の自治体市民1人当たりの床面積の平均は3.38㎡であり、比較すると飯田市は0.91㎡多い。
（全国平均 約3.42㎡）（東洋大学 PPP 研究センター全国調査）

施設の内訳

- 学校 36%
- 公営住宅 13%
- 集会施設 9% — 公民館、分館、コミュニティ防災センター
- 庁舎等 6% — 本庁舎、自治振興センター
- 病院は含まれない。（病院分約 29,000㎡は全体の6%に相当する。）

② 築年別整備状況（平成22年度）

施設全体のうち約45%が築30年以上経過。一般的に築30年は大規模改修、築60年経過すると建替えが必要となるため、これから先に大規模改修や建替えのピークを迎える。

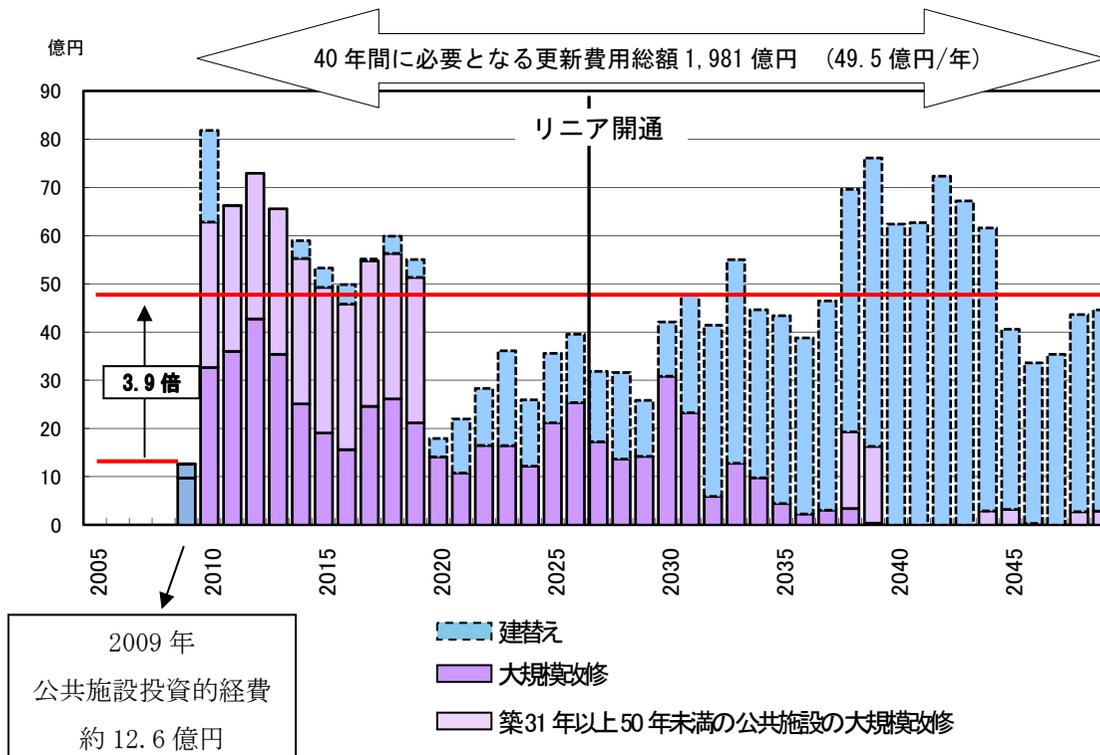


③ 将来の更新費用の試算

今後、現在の施設全てを更新する場合、40年で1,981億円が必要となる。これを1年あたりに換算すると毎年49.5億円の経費が必要。**2009年の公共施設投資的経費12.6億円に比べて約3.9倍となる。**

このことから、全ての公共施設を改修・建替えることは、費用が莫大となり困難な状況であるため、総合的な検討が必要である。

公共施設の将来の更新費用の推計



更新費用試算根拠 (総務省 試算ソフトより)

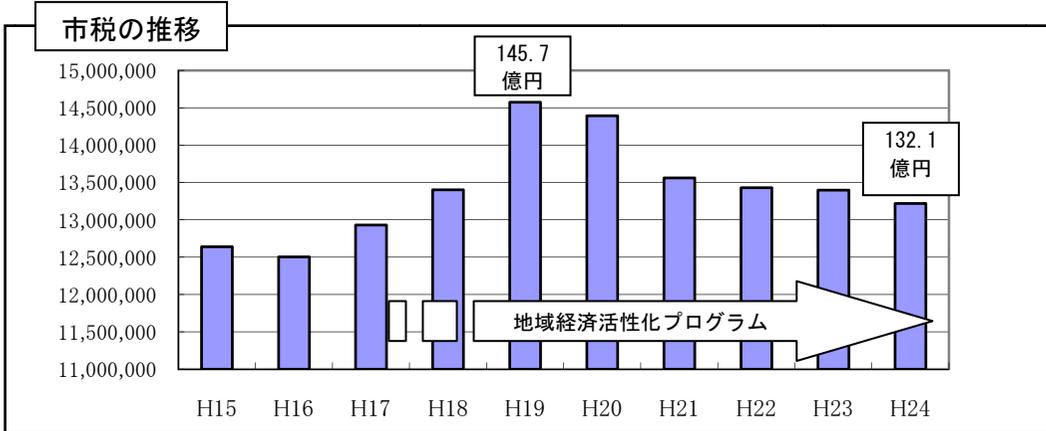
- ① 築後 60 年で建替えと仮定。整備年度ごとの延床面積に更新単価を乗じ積算。
- ② 築後 30 年で大規模改修として積算。
- ③ 築 31 年以上 50 年未満の公共施設で、大規模改修を行っていない施設は今後 10 年間に於いて大規模改修を行うことを想定して積算。

(参考) 更新単価

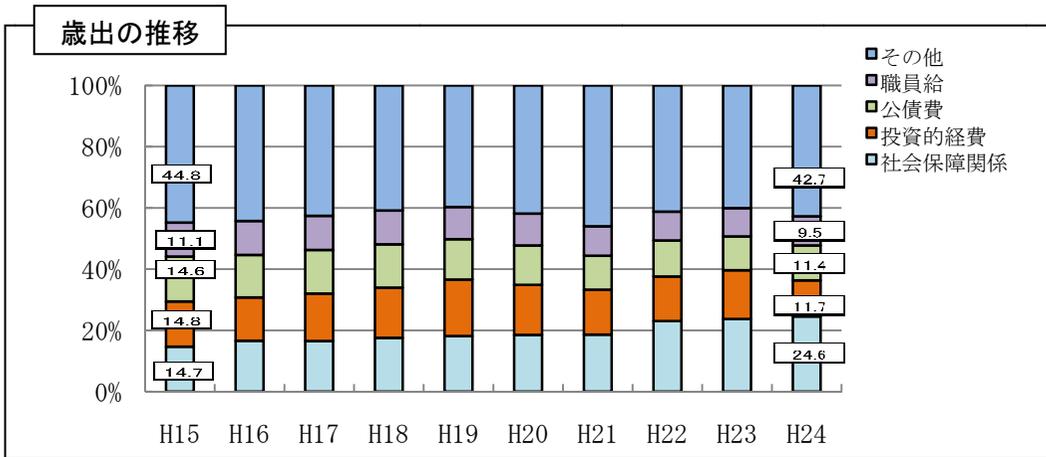
施設	大規模改修	建替え
行政系・社会教育・市民文化系	25 万円/㎡	40 万円/㎡
保健福祉・スポーツ系	20 万円/㎡	36 万円/㎡
学校教育・子育て	17 万円/㎡	33 万円/㎡
公営住宅	17 万円/㎡	28 万円/㎡

(設計価格。大規模改修は新築の6割を想定。建替えは解体・移転・設計含む)

2. 飯田市財政状況等の推移



飯田市では地域経済活性化プログラムを策定・推進し、産業振興に力を入れ、安定的な税収確保に取り組み増加させてきたが、リーマンショックの影響でここ数年減少傾向にある。(平成19年度の大増収は税源移譲(所得税(国)の減、住民税(地方)の増)の影響が大きい。)



■ 歳出に占める投資的経費と社会保険関係の割合

- * 投資的経費は減少
14.8% (平成15年度) → **11.7%** (平成24年度)
- * 社会保険関係の経費が大きく増加
14.7% (平成15年度) → **24.6%** (平成24年度)

人口の推移

飯田市の人口は減少傾向にあり少子・高齢化も進んでいる。このため公共施設に求められる機能も変化してきており、施設の集約化、多機能化の検討が必要になる。

3. 飯田市公共施設マネジメントの基本的な考え方

公共施設管理の基本原則

暮らしやすい地域づくりの推進、より良い市民サービスの提供

公共施設の現状と課題

- ① 施設の老朽化 → 施設の計画的かつ効果的な改修の実施
- ② 財政状況の変化 → 改修コストの平準化、財政負担の軽減
- ③ 人口減少と構成の変化 → 施設機能の見直しと充実

基本的な考え方

公共施設の現状、財政状況、人口の推移を踏まえた「飯田市公共施設マネジメント基本方針」の策定と、用途別施設の改善方策の検討を進め、市民との合意形成を図りながら実践する。

現状と課題

- ① 公共施設の現状
- ② 財政状況
- ③ 人口の推移

飯田市公共施設マネジメント基本方針

- 1 施設の長寿命化**
施設の計画的かつ効果的な改修の実施により有効活用を進める。
- 2 施設の集約化・多機能化**
多様なニーズに対応する機能の見直しと集約化を進める。
- 3 新たな運営方式**
民間活力の導入など効率的・効果的な運営を進める。
- 4 財政負担の軽減**
改修コストの平準化、費用対効果の検討を進め財政負担の軽減を図る。
- 5 新規施設の考え方**
新規施設の整備については、費用対効果、類似施設等を十分検討し、必要性を慎重に判断する。

用途別施設の改善方策の検討

長寿命化の検討

施設の老朽化や耐震状況等を把握し、改修の優先順位を明確化させ、計画的で効果的な改修を進める。

管理運営の見直し

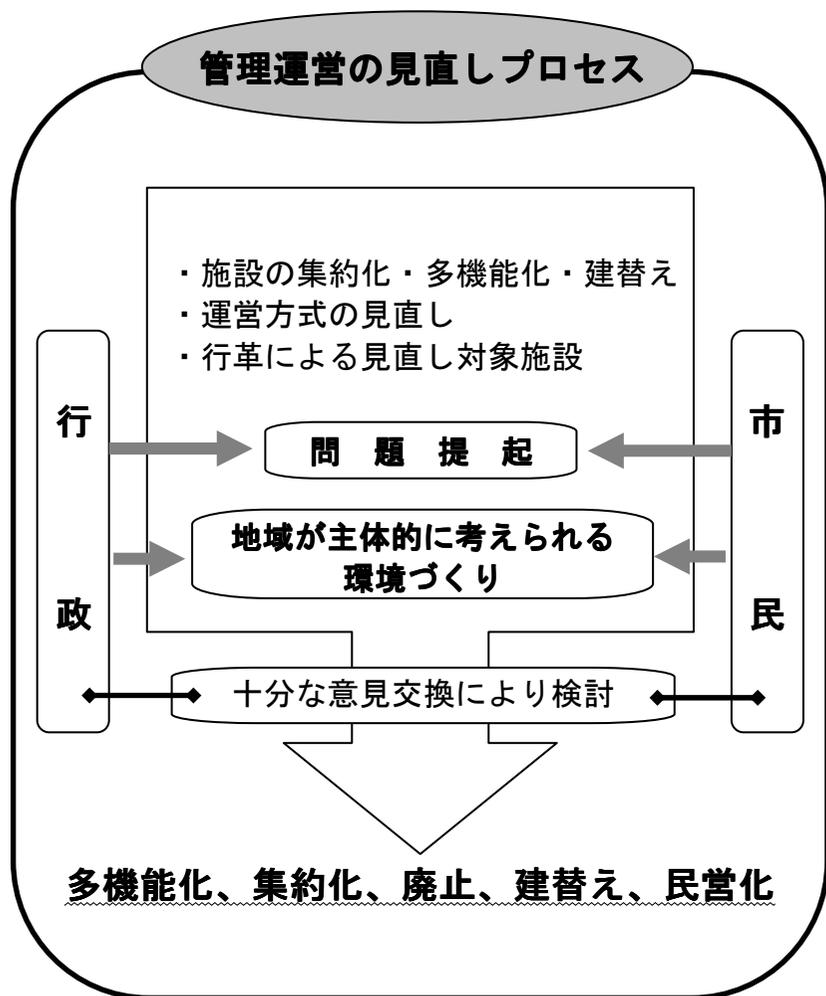
施設の集約化・多機能化・建替え・運営方式の見直し・行革等により、管理運営の見直しが必要な施設は、市民との十分な意見交換を行い検討し実践する。

市民との合意形成

実践

4. 管理運営の見直しプロセス

管理運営の見直しが必要な施設については、地域が主体的に考えられる環境づくりの支援を進めるとともに、市民との十分な意見交換により解決策を検討し実践していく。



実践例 ～地域での検討、実践により公共施設を有効活用～

―飯田市の事例―

① 保育園民営化への対応

- ・松尾保育園 慈光福祉会に経営移管し、慈光松尾保育園として運営
- ・千代保育園、千栄保育園 地域が社会福祉法人を立ち上げ運営
- ・上郷南保育園、上郷東保育園、上郷北保育園、上郷西保育園 地元協議により4園から2園へ統合、民営化について検討中

② 杵原広場（山本）

杵原学校応援団、地元関係団体により管理運営

③ 野底山森林公園（上郷）

異なる部署で管理していた施設を、地域が指定管理を受け総合的に管理

④ 旧上村中学校（上村）

まちづくり委員会により利活用方法を協議

⑤ 旧木沢小学校（南信濃）

木沢活性化推進協議会により管理運営

⑥ 旧飯田測候所、菱田春草生誕地

地元が中心となり歴史的資源の保存や募金活動を行い、施設の利活用や維持管理に取り組む

⑦ 下久堅自治振興センター、下久堅公民館、JAみなみ信州下久堅支所

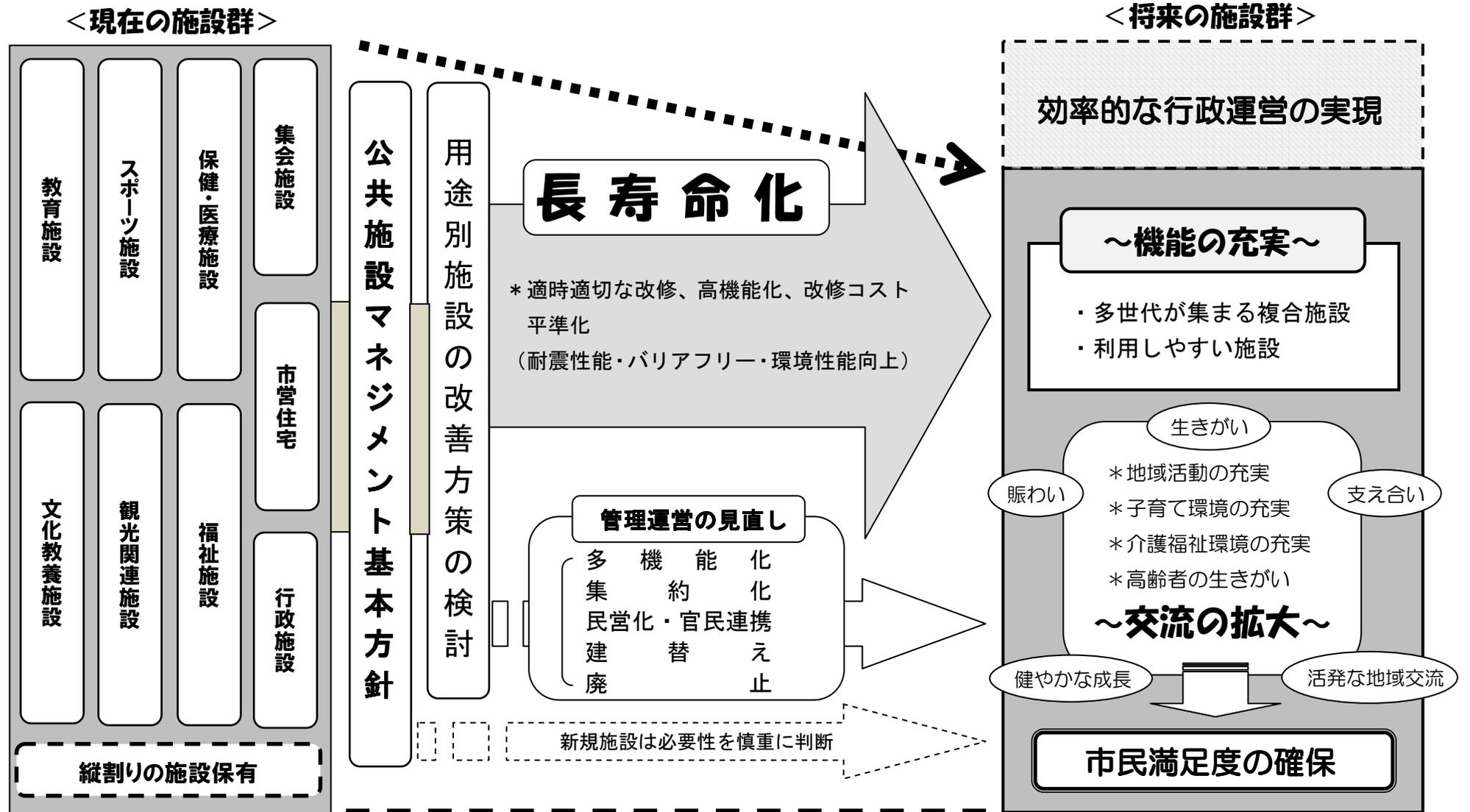
地区内にある公共的団体の施設機能を集約化した施設整備

―他自治体の事例―

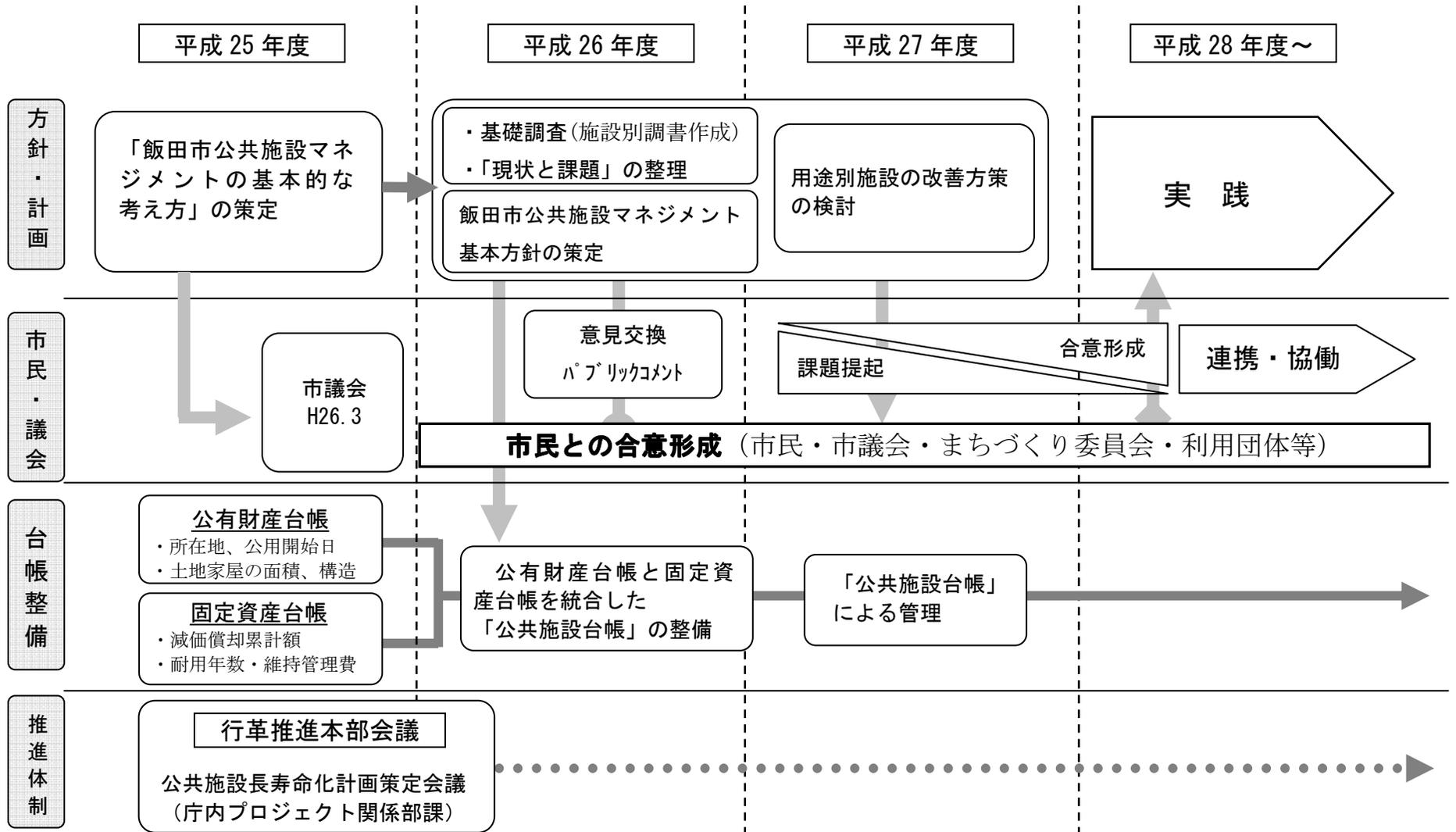
① 西川町立西川小学校（山形県）

学校図書室を町民が利用できるように改修。住民専用エントランスを設置。一部はコミュニティーセンターとしても活用している。

5. 良好な公共施設管理のイメージ



6. 今後の進め方



<参考>

飯田市公有財産維持管理の全体概要

